

第5回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和8年2月13日（金）午後1時30分～午後4時00分
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室7
- 3 出席者：前田委員長、林田副委員長、高島委員、永尾委員、田代委員、椎野委員、北村委員、島田委員、安藤委員
関係者：おだわら市民交流センターUMECO指定管理者 柏木センター長、興津副センター長、飯塚氏、吉田氏（議題（1）②から）
事務局：岩田市民部副部長（地域政策課長事務取扱）、八田副課長、城戸主査、菊地主事
- 4 資料：
 - ・次第
 - ・資料1 UMECO指定管理者第三者評価（令和8年度実施事業分）実施要領
 - ・資料1-2 令和7年度おだわら市民交流センターUMECO指定管理者第三者評価シート
 - ・資料2 おだわら市民交流センターUMECO指定管理者実施事業計画（令和8年度）
 - ・資料3 令和7年度小田原市市民活動・協働応援制度補助金 第一次審査集計表【非公開】
 - ・資料3-2 令和7年度小田原市市民活動・協働応援制度補助金 第一次審査集計結果【非公開】

5 会議内容

■ 開会

委員長：ただいまから、第5回小田原市市民活動推進委員会を開会する。

本委員会の会議は原則公開となっているが、議題（2）小田原市市民活動・協働応援制度補助金第一次審査について、補助金に係る書類審査を実施するにあたり、市民の間に不当な影響が生じないようにし、かつ特定の者に不当な利益又は不利益を与えないようにするため、小田原市情報公開条例第24条第3項に基づき「非公開」とする。

■ 議題（1）おだわら市民交流センターUMECOについて

委員長：議題（1）おだわら市民交流センターUMECOについて、①第三者評価について、事務局から御説明をお願いしたい。

（事務局 資料1、1-2に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か質問はあるか。

（意見なし）

委員長：次に、議題（1）おだわら市民交流センターUMECOについて、②令和8年度事業計画、に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができることから、以降の議題についておだわら市民交流センターの指定管理者に御出席いただく。指定管理者から御説明をお願いしたい。

（指定管理者 資料2に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：各コンセプトについて、現時点での進捗状況を確認したい。また、それぞれ達成可能と考えている点と、課題として認識している点を伺いたい。

指定管理者：基本的にはコンセプトに基づき事業計画を策定し、年度ごとに事業を実施している。来年度は地域とのネットワーク構築を重点的に進める方針である。地域団体におだわら市民交流センターUMECO（以下、UMECO）の認知が十分に浸透していないことから、認知拡大を図る必要があると認識している。また、団体支援や交流会については、活動目的の達成につながる十分な成果が得られていないことが課題である。そのため、交流会を他事業と連携させ、地域団体や市民とのつながりを強化し、事業成果につながるよう来年度の事業計画を見直す考えである。

委員：団体への支援が足りていないという話や交流会をやっても楽しかったとして終わってしまうとの話について、重要なキーワードかなと思う。逆に交流会を実施して上手くいった例があれば伺いたい。

指定管理者：県と連携して開催したパートナーシップミーティングでは、地域、企業、学校、市民活動団体が参加し、交流の場を創出することができたことから、一定の成果があったと認識している。また、団体交流会では、若者の参加促進について意見交換を行い、参加者数は少なかったものの、スタッフの意識向上につながる成果が得られたと考えている。

委員：1つ目の事例では、県のリソースを活用して、場のセッティングができた。また、2つ目の事例では、若者を取り込んでいる団体と情報共有ができたとの理解で合っているか。

指定管理者：合っている。ただし、1つ目の事例については、単に交流の場を設定したことではなく、県との連携を通じて新たなつながりを構築できた点が成果であると認識している。

委員：きっかけがくれたとのことについて、UMECOの取組によって意図的に交流やつながりがくれたのか、それとも参加者が集まったことで自然発生的につながりが生まれたのか、どちらであるのか。

指定管理者：UMECOとしては、その場を設けることで、各参加者が交流できる機会をつくり、団体や企業にも参加を募る形式で機会を提供するという役割を果たしたと考えている。

委員：UMECOでは、さまざまなきっかけづくりにつながる活動を実施していると思うので、そこをぜひ若者の交流会や異なる団体の交流の場として、来年の計画に盛り込んでいただきたい。

指定管理者：承知した。

委員：「2 アクティブサロン」について、参加団体が固定化している状況であると認識している。新たにアクティブサロンの実施を希望する団体が現れた場合、既に当該月の開催予定が決まっていると入る余地がないと思うが、その際の対応方法について伺いたい。

指定管理者：アクティブサロンについては、新規団体の参加も増えている。新たに実施を希望する団体については、早めに相談してもらうことで開催時期の調整が可能である。ただし、月1回程度の開催であるため、希望時期によっては調整が必要となる場合がある。また、年度末に近づくにつれて既存団体で予定が埋まり、組み込みが難しくなる状況もあるが、希望した団体の参加を断った事例はない。なお、利用上の制限として、大きな音を伴うパフォーマンスや音楽活動は対象外であるが、年間約20団体が参加できる機会を設け、新規団体にも積極的に参加を促している。

委員：地域とのネットワーク構築を重視しているとのことであるが、自治会におけるUMECOの認知度が低い現状がある。そこで、UMECOの認知度向上や皆がつながって共に行動することを促すための具体的な方策について考えを伺いたい。

指定管理者：今年度は自治会との接点づくりを試みたものの、十分な連携には至らなかった。来年度は、地域政策課の協力を得ながら自治会へ出向き、短時間でもUMECOや市民活動について説明する機会を設けたいと考えている。また、市民活動団体の冊子を活用して活動内容を周知し、連携の可能性を探るとともに、アンケート等により地域のニーズを把握した上で、市民活動団体とのつながりづくりにつなげていきたい。

委員：以前から課題となっている地域との課題解決に向けて、地域が抱える課題や資源を把握し、市民活動団体として支援できる取組を進めることが重要である。一方で、地域課題の把握は容易ではないため、アンケート等を活用するとともに、自治会を担当する地域政策課とも連携しながら課題の把握に努めていただきたい。その上で、取り組みやすい課題から解決を図り、まずは具体的な成果を一つでも生み出すことを目指していただきたいと考えるが、どうか。

指定管理者：おっしゃるとおりである。過去に地域政策課で実施したアンケート結果についてはある程度把握している。その内容を踏まえ、市民活動団体と地域課題をどのようにつなげていけるか連携方法を検討していく。

委員：市民活動入門講座について、これまでは近隣の大学や高校へ出向き、夏休みボランティア体験学習や市民活動に関する出前講座を実施してきたと認識している。今後は、それに限らない若者とのつながりづくりを進めたいとのことであるが、具体的な取組の方向性について伺いたい。

指定管理者：現在、2つの私立高校において夏休みボランティア体験学習に関する説明を実施しているが、今後は夏休みボランティア体験学習に限らず、市民活動やUMECOの取組についても積極的に周知していきたいと考えている。また、出前講座については、実施校の拡大を目指しているが、学校側の受入れ状況にも左右されるため、段階的に拡大していく方針である。さらに、国際医療福祉大学で実施している課外授業への参加についても継続し、市民活動やボランティアに関する講義を通じて、若者とのつながりづくりを進めていきたい。今後も対象や活動範囲を徐々に広げる取組を進めていく考えである。

委員：UMECO祭りについて、満足割合を指標として設定しているが、アンケートの実施方法や回収率の状況について今年度の状況と、来年度の改善について教えていただきたい。

指定管理者：UMECO祭りでは、全参加団体のアンケート回収を目標とし、後日提出やオンライン回答を可能とするなどの改善を行った。その結果、参加団体からの回答率は80%ほどであった。一方で、来場者アンケートの回収率は依然として低い状況であった。景品によって回答を促進させる案もあったが、今年度は実施していない。今後は、他事業においても後日回答を可能とするなど回収方法を工夫するとともに、アンケート内容を見直し、回答しやすく、必要な情報を把握できるものへ改善していきたい。

委員：UMECO祭り当日は賑やかな雰囲気であるため、来場者がアンケートに十分な時間をかけることは難しいと思われるが、もう少し回収について工夫を行っていただき、参加者の声を拾い、今後の事業改善につなげていただきたい。

委員：アンケートの回収方法について、入口が2か所あることを活用し、それぞれにQRコードを設置することで、来場者数の把握とアンケート回答への誘導を同時に行う仕組みを検討してはどうか。この方法であれば、来場者が手軽に回答でき、回収率の向上にもつながると考えるため、今後の取組として検討いただきたい。

指定管理者：入場者数の把握については今回実施できなかったが、アンケートについては、回答用紙の設置に加え、QRコードを会場内やパンフレットに掲載した。その結果、昨年度は数件程度であった回答数が10件以上に増加したものの、十分な回収には至っておらず、来場者アンケートの回収は引き続き課題である。

委員：「7 地域とのネットワーク」において、自治体との接点を持つために、自治会の会合へ出向き、市民活動について、説明を行ったとのことだが、この会合は小田原市内の全自治会が集まっている会合であるか。

指定管理者：今年度は、各連合自治会に属する、防災や子育て等の分科会が参加するまちづくり委員会での説明を予定していたが、調整がつかず実施には至らなかった。来年度は、地域政策課の協力を得ながら、自治会との接点づくりや市民活動に関する説明機会の確保に向けて調整を進めていく予定である。

委員：地域との関わりづくりについては、全体に向けた説明だけでは十分な成果につながりにくいため、まずは協力を得られる自治会を早い段階から選定し、具体的な課題把握を行うことが重要である。その上で、行政とも連携しながら自治会の困り事を把握し、解決につながる市民活動団体を紹介するなど、課題解決に向けた具体的なつながりづくりを進めていただきたい。まずは一つの自治会との連携を深め、成果を生みながら他地域へ広げていく手法も有効であるとする。こうした取組は、小田原市の協働事業にもつながるため、行政とも連携しながら進めていただきたい。また、「11 団体向け各種講座」における「ニーズを捉え」との記載について、団体のニーズ把握の方法はアンケートであるのか確認したい。

指定管理者：アンケートだけでなく、年間を通じて団体とのコミュニケーションを図る中で、活動上の困り事や要望を把握し、それらをニーズとして捉えていきたいと考えている。

委員：団体向けの講座開催においては、困り事を把握し、その困り事を解決するために適した講師を選定する必要がある。また、その講師はどのセンターでどのような講座を行ってきた等を調べ、小田原の市民活動団体に一番マッチする講師を選ぶという作業になると思う。非常に時間がかかると思うので、やはりニーズの把握は、アンケートを待たずに、

できるだけ早めに動かれる方が良い講座に結び付くと思う。

指定管理者：承知した。

委員：「14 UMECO祭り」や「15 団体交流会」の説明からは、参加団体が受け身の立場になっている印象を受けた。UMECO祭りは、以前は有志団体が主体的に企画・運営していたが、現在はUMECOが積極的に関与しなければ運営が成り立たない状況とのことであった。市民活動は多様な分野で構成されるが、各々が好きなことだけを行うのでは、広域的な市民活動ではないと考える。そのため、UMECOは、場所は提供するが、企画・運営は参加団体が主体となって行うという基本的な考え方を改めて周知し、原点に立ち返る必要があると考える。団体とUMECOが切磋琢磨しながら運営していくことが望ましい。

委員：UMECO祭りについて、実行委員が少なくなった理由について検討したのか伺いたい。また、「明日のUMECO祭りを考える会」を開催するということに感心していたが、やはり参加者が少ないということが、残念である。団体主体で実施したいとの考えを示されていたが、団体主体で進めるための方法について、どのように考えているのか。

指定管理者：アンケートでは、参加団体からの回答率は80%であったが、実行委員を希望する団体はなかった。実行委員の減少に伴い、現在はUMECOが運営を担う場面が増えている。この状況を踏まえ、UMECO祭りの本来の目的や在り方を見直すため、「UMECO祭りを考える会」を開催する予定であるが、現時点では参加者が少ない状況である。参加団体全体で主体的に祭りをつくり上げるという本来の目的を共有し、運営体制の見直しを進めていく考えである。

委員：「16 国際交流」について、外国籍の方の中に留学生はどのくらいいるのか。

指定管理者：そこまで把握できていない。

委員：留学生は卒業後も新たな留学生が入学するため、地域には継続的に一定数いると考えられる。留学生が多い大学もあることから、大学の留学生担当者へ積極的に情報提供を行うことで、日本文化に触れたいと考える留学生との接点を増やすことができる。小田原は歴史的な魅力を持つ地域であるため、まずは一度訪れるきっかけをつくることが重要である。留学生同士のコミュニティによる口コミを通じて参加者が広がる可能性もあることから、こうしたつながりを活用し、国際交流の裾野を広げていくことが期待される。

指定管理者：国際医療福祉大学には外国籍の学生が多く在籍していると聞いているため、大学と連携し、留学生とのつながりを広げていきたいと考えている。また、今年度のパートナーシップミーティングでは、星槎大学箱根キャンパスから、留学生や外国籍の方との関わり方について学ぶ機会があったため、その内容も参考にしていきたい。今後は、留学生だけでなく外国籍の居住者も含めた交流の機会を創出するとともに、仕事を通じて地域に居住している外国籍の方々が持つコミュニティとも連携しながら、国際交流の促進につなげていきたい。

■ 議題（2）小田原市市民活動・協働応援制度補助金第一次審査について【非公開】

■ その他

委員長：その他について、事務局からお願いします。

（事務局 今後の会議日程の調整）

※今後の会議日程及び場所は次のとおりである。

第6回委員会・・・3月7日（土）終日 UMECO

第7回委員会・・・5月21日（木）午前 UMECO

第8回委員会・・・6月28日（日）午後 UMECO

■ 閉会